

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 1 4

開催地：多良木町多良木10区の2

平成19年6月25日（月）、多良木町多良木10区の2において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

多良木10区の2公民分館にて開催された同報告会には、約10名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

町内	11名
町外	1名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・ダムでなければ洪水に対応できないという説明に聞こえる。
- ・100年に1回や80年に1回の洪水に対応と言うけれど、有史以来そうした洪水は何度も起きているはず。それでも、人吉・球磨の自然が残っている。危機感をあおらなくてもよいのではないか。
- ・説明を聞いていると、川辺川の利水問題につながる話に聞こえる。
- ・基本高水流量、計画高水流量は住民の意見によって変わることはないのか。基本方針に住民意見が反映される機会が無いのはおかしい。
- ・ダムには限界があるのだから、異常降雨に備えて計画高水流量4,000m³/sを5,000m³/sにすることを検討すべき。
- ・人吉層はそんなにたくさん分布していないのではないか。
- ・歴史的洪水の青井阿蘇神社の例について、当時とは川の状態が違うのではないか。
- ・双方向に検証し議論し合う場を設定しないと、一方的な計画を押し付けることにしかならない。
- ・住民団体が示している基本高水は5,500m³/sだが、この流量は今の状態でだいたい流れる。国土交通省の言うように、400m³/s分の掘削を行い、人吉の上流に遊水地をつくれれば水位を下げられるのではないか。こういうことを検証し合いたい。

【球磨川の治水対策について】

- ・今は上流部でも堤防が整備され浸水被害の心配がなくなっているが、以前は市房ダムが放流する際に避難命令が出ていた。
- ・危機感をあおってダムをつくるよりも堤防の整備を進めて、災害が起きれば災害援助法で復旧工事を行う方が地元の業者にも良い。
- ・下流域の洪水が市房ダムの影響ではないかということについて説明して欲しい。
- ・避難勧告が出る場所はいつも同じで王宮橋の下流左岸であり、仮ブロックを積み上げたりしている。地形上、洪水の流れが当たる場所にあるのだから、堤防が壊れないように天端までコンクリートを打つなどの対策ができないか。
- ・我々が小さい頃に比べるとヨシ原がものすごく増えてきた。以前、ヨシ原は水を浄化するのでいいのではという話もあったが、増えすぎるのも困る。川幅が本来の1/3くらいしかないところもあり、何とかできないか。
- ・市房ダムができてから、洪水の量が増えるようになったと聞いている。なぜ一気に水位があがるのか、水害体験者が納得する説明をすることが必要。また、一方的な説明でなくて、それらの方に反論する機会を与えることが必要。
- ・市房ダムは完成してから50年になるが、堆砂の状況を教えて欲しい。H6には土砂が上流に大量に入ったはず。
- ・川のすぐそばの水路が排水不良で浸水する箇所があるので、土砂等の撤去をして欲しい。

【球磨川の環境について】

- ・川は自然のままに残した方がいい。昔は砂利がたまるようなところに砂利業者の施設があり、川もきれいだった。

- 外来種の生息状況をどのくらい把握しているかについて教えて欲しい。錦町の方ではミドリガメが大量に発生していると聞いた。市房ダムでは、昔はヘラブナ釣などが盛んだったが今はダメ。ワカサギについても同様に、ブラックバスが稚魚を食べてしまいほとんどいない状況。
- 川底の岩には鮎の餌となるコケがつくが、川底を掘削した時にどういふ影響が出るか教えて欲しい。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

